



祈りを込めた歌声が会場を包み込む

届

6

9

12

13

2

3

4

5

1万基のキャンドルが美しい模様を描く



7



8



10

11

Caption

1\_止まない雨。降水確率は80% 2\_無情な雨にもスタッフは手を止めない 3\_イベント開始後も状況は変わらなかった 4\_顔を上げ、願う 5\_予期せぬ青空。空が焼ける 6\_来場者を魅了する光。装飾から片付けまで全て1日で行う 7\_シェードは市内の園児や児童などが描いたもの 8\_スタッフとして子どもたちも協力 9\_小さな灯は大きな光へ 10\_イベントの一部となった自分のシェードは会場のどこかに 11\_普段見られない生の音楽を堪能 12,13\_第1回からイベントに協力しているプロアーティスト「TeN」さん。ラストソングは子どもたちと合唱

厚い雲が嘘のような青空へ。天へ届いた会場の想い

11月2日、総合体育館の駐車場。朝から大粒の雨が降り続いてきた。この日開催が予定されていた「かわにし音灯り」は、平成23年に始まったイベント。阪神・淡路大震災の記憶を胸に、東日本大震災への鎮魂の祈りが込められている。企画・運営に携わっているのは、市民有志の団体「街はカーニバル!プロジェクト」。多くのボランティアがメンバーとして活動し、約1年かけて準備を進めてきた。プロミュージシャンなどによる音楽演奏と約1万基のキャンドルシェードのコーポレーションに、毎年多くの人が会場を訪れる。「音」と「灯り」に雨は大敵。野外的ステージや紙製のシェード、夕方には点灯が始まる。中止も危惧される中、早朝から作業は続けられた。午後1時のイベント開始から約1時間、雨が止む。陽の光が会場を照らした。朝の厚い雲が嘘のような青空。見上げるスタッフの顔には笑みがこぼれていた。この日証明された事実、想えば願いは届くということ。多くの人が描き出した平和や希望への願いは、夕闇を照らす小さな灯りとなって、美しい幾何学模様を描いていた。

届

かわにし音灯り2014

